

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290500145		
法人名	株式会社 関東サンガ		
事業所名	あたま翔裕館		
所在地	熱海市水口町1-23		
自己評価作成日	令和2年1月10日	評価結果市町村受理日	令和2年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2019_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2290500145-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2019_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2290500145-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和元年2月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

常にご利用者様の思いを理解し共同生活を楽しく、元気に過ごしていただける様、ゆとりある生活支援を心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループ内での地域エリアが変わり、当事業所でも法人名、事業所番号、事業所名の変更がありました。10年余もこの地域に在る事業所ですが、新たにスタートを切ったことで、諸所取組みを見直しています。例えば掲示と全体会議で唱和するほかは理念浸透への取組みがないことは、法人のES調査でもこの点が課題とあがっているため、今後は正していく予定です。一方光明もあり、事業所の対応を利用者家族が評価してくださっていることは今回のアンケート結果でも顕著で、人数が少ないなかにあっても協力意識をもって日々活動できています。法人が推進する『元気グループ認知症ケアプロジェクト』も始まり、“これから、”という時です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念とグループホームの年間目標を掲げ全職員が共有できるよう務めている。会議等にて蔡確認している。	半年程前に法人がES調査を実施したところ、理念や帰属意識といった方面の結果がはかばかしくなく、事業所としても現在の「掲示と毎月の全体会議で唱和する」だけでは浸透が難しいとして、今後の課題としています。	目標管理シートや1分間スピーチ、いいこと探し等浸透への取組みツールを早急に検討することを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域ボランティアや保育園児との交流は、継続している。	運営推進会議の出席は難しいとのことですが、自治会長との関係は良好で、『広報あたま』も毎回届けてくださっています。成田山への散歩は利用者の生活に溶け込み、お茶をよばれて帰ってくるパターンを日々重ねています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献までな、至らず出来る範囲で繋がり継続と理解を求めて行きたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度運営推進会議を開催し利用者様の現状や活動内容の報告の場を作っている。	運営推進会議は隔月開催と議事録作成が滞りなく実施できています。民生委員や町内会長の出席が叶わず、メンバーが整わないことから、年間で曜日、時間を固定して、欠席者をださない工夫をおこなっています。	「日々のケアにおける取組みを知ってもらいたい」と事業所では考えていますので、運営推進会議の中でその姿勢が伝わるようなアプローチを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加をして頂きいつでも相談できる体制を取っている。	市役所は徒歩3分と近く、電話より出向いたほうが早いこともあって、フェイスtoフェイスの関係が築けています。運営推進会議にも毎回足を運んでくださり、時に出席者からあがる制度や仕組みへの質問にも丁寧な回答を得ています。	(敷地内の併設事業所は通所部会に出席があるものの)熱海市の事業者提供連絡会の施設部会への出席を期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロを宣言、身体拘束委員会にて情報共有に努めている。	一昨年改正の身体拘束適正化については、指針を整備のうえ身体拘束ゼロ・虐待防止委員会を偶数月の開催として2ヶ月に1回実施しています。委員会の話し合いも現場に即しており、真摯に取り組んでいることを確認しました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年数回内部研修を開催知識の共有と理解を深め研修報告書の提出を義務付けに努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員が理解するには、まだまだ至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用者様・ご家族様が安心できる様十分な説明を行い理解を求めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様と密に連絡を取り合い細かな報告や相談をさせて頂く事により良い関係性を築いている。	写真付の事業所通信『熱海翔裕館だより』を家族に配布して安心を担保しており、今回の家族アンケートでも職員への信頼が厚いことが覗えます。一度整容について苦言があがったことがあります。全職員に周知して速やかにチェック表を作成し、是正に至っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、GH会議等で会社の運営、職員との意見交換を行っている。	全体会議(併設事業所全部)、グループホーム会議、ユニット会議と協議を構造化のうえ、運営体制を堅固にしていますが、人手不足は大きな課題です。それでも職員はお互いに助け合い、現状はチームワークよく勤しんでいて、職員意見で制服やミキサー購入等も実現しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全体、個々に改善を行っている途中です。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・職員には、研修の情報と機会の確保を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流・情報交換は、研修を通してのみ行っていないが、今後は施設全体での勉強会を行い向上して行きたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	支援して行く上でご利用者様の更なる理解と安心を確保できる様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	少しでも多くの要因に応えられる様支援して行く事が、より良い関係性を築く事である。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	決められた支援ではなく限りない支援をして行く。本人にとって本当に必要なのかの見極めを判断する事も重要である。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護者主体の生活になりがちなので、ご利用者様の声を傾聴し受容する様勤めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様のご様子を事細かに報告しご要望をお聞きする事、共に支援していく関係を築いていく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	他者との交流は、とても大切である為継続していく事が大事だと思っている。	趣味や嗜好品を継続している人はいません。年数回自宅外泊や美容室に通う人が2名います。また月1回程度は外食という人もいて、いずれも家族が誘ったり、付き添っての送迎があり、馴染みの関係継続は、家族努力で成立している向きがあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り全員が他者とのコミュニケーションが図れ孤立しない様支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今まで築いて来た関係性を断ち切ることなく受入れの態勢を維持していく。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の日頃の様子や思いを傾聴し支援の仕方を話し合っています。	入居時に家族からアセスメントシートを通じて生活歴などを聴取、把握した情報をもとに利用者本人に投げかけ、返ってきた言葉や表情によって見立ててゆく方法で、好きな歌や話材を入手して関わり方を検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人ファイルやご本人・ご家族様から話を伺っていますが、全職員の把握まで至っていない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の報・連・相を徹底し細かい変化や訴えを見逃さない様にしています。又ユニット会議では、ご利用者様の現状、支援の方法を話し合います。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員がモニタリングの必要性を認識し介護計画に沿った支援まで至っていない。	一律の日課表をベースとした個々のルーティンは申し送りで職員共有が成され、2表のサービス内容を転写して現場に置き、都度チェックしています。サービス担当者会議は家族の面接のタイミングに合わせていますが、なかなか合わず家族参加がないこともあります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に関しては、職員によって記録の仕方が十分とは言えず、それが実践や気づきに繋がっているとは言えない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別支援として、その人のニーズに応えられる様職員が柔軟に対応しご家族ともその都度話し合いご利用者様にとってベストなサービスが出来る様勤めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年間行事を通して地域の方々に協力を求めご利用者様の充実した生活を支援して行く。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様・ご家族様の負担にならぬ様よく話し合い決めている。まだ課題がある。	従来のかかりつけ医を継続する2名は家族が通院に付き添っています。訪問診療を希望する場合は、3箇所の医院の中から家族が選んでおり、立ち合いは当日の日勤が担当するため、医師に何を伝えるか等漏れがないよう、職員間での注視することを旨としています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の協力を求め、些細な事でも相談できる環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のケースワーカーと密に連絡を取り合い連携を保っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者の些細な変化を細かくご家族様に報告し今後どの様な終末期を迎えるのかを早い段階からご希望を聞いておきその時に備えている。体制はまだ完璧とは言えない。	看取りをおこなう事業所であることは家族には説明済みです。状態に変化があった都度家族と相談の場をもち、此処での看取りを含む幾つかの選択肢から選んでもらっています。看取りに入る前には家族、職員ともに担当医から説明や指導を仰ぎ、この1年で2名をお見送りしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時における対応は職員でスムーズに連携が取れる様研修を行っているが、定期的な確認が必要である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内の避難場所として当施設を利用して頂くと共に町内の方々と防災意識を共有して行きたい。	これまで日中想定で繰り返された防災訓練は、本年初めて夜間想定でおこない、「差がなかった」との結果となり、課題を残しています。また同敷地内に法人内他種サービスもあって駐車場も広いため、地域の避難場所として活用することとなっています。	日中と夜間で差が無いのは設定に課題が残るため、見直すことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年2回接遇の内部研修を行い、個々の意識改革をしていく事。全職員が徹底した接遇を目指している。	接遇やマナーはさらに研鑽が必要とし、接遇研修は手厚く年2回実施しています。「居室に入る前にはノックを」「～ちゃん呼びはNG」といったルールもあり、「上位者や先輩がモデルとなって示せるように」と管理者が常に言い伝えています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中でうまく聞きだせる様または、決定できる様職員が、働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間や1日の流れにこだわらず、個々が自由に快適に生活できる事を大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	少しでも笑顔がみられる様に個別に対応させて頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方が決まっているので現状です	雛祭りや敬老会などの時節行事に合わせた献立もあり、訪問当日は節分の恵方巻きを模して、カットした巻きずしや稲荷が提供されました。ミキサーの人が増えていますが、ネギやゴマをのせるだけでも利用者をお願いしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	徹底した記録と細かな引継ぎ、状態に合わせたケアをしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	気になる方は、御家族と相談の上訪問歯科を利用、定期的に見て頂きながら毎食後の口腔ケアは、欠かさず行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を徹底し排泄、排便のリズムの把握、スムーズなトイレ誘導、ポータブルトイレの利用等その方に合った排泄方法を常に考えています。	運動と水分で薬を使わずに自力でということを目指し、継続的な取組みの結果、認知症の向上が見られた人もいます。重度化が進み、立位がとれず日中はテープ止めおむつが4名となって職員の手間が増えていますが、声をかけあって乗り切っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医や看護師に相談し薬の調整・水分での工夫など個々対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員本位になってしまっているが温泉と言うと皆様に大変喜ばれ、入浴後には笑顔を見せて下さいます。	週2、3回を目安に用意されているお風呂は天然温泉です。平均介護度が3.3と重度化が負担となる中、浴槽に入ることができる人は格段に減ってはいるものの、シャワーチェアでも浴槽に溜めた湯を肩から何度もかけて「少しでも温泉を味わってもらおう」と努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	強制的にならぬ様、食事時間をその日の体調に合わせてたり、個々の生活習慣を尊重しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	些細な事でも医師・看護師に相談し、職員の服薬に対する認識も向上する様努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族様に昔のご様子をお聞きしたり、得意な物や、得意だったことが少しでもできる様支援しています。ただ全員には、至っていない		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに担当を決め、ドライブ等のイベントを考えている個人的なご希望に添えない場合も有るが、添えるように努めている。	重度化と職員不足が重なり、最近では外出ができていません。それでも成田山への散歩は励行され、玄関前や屋上での外気浴はできるだけ実施するよう計らっており、実施記録は経過報告に残しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と連携し、外出のときは、買い物ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望は、その都度お聞きし対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎の壁画づくりや、折り紙等でクスマ作りをしたりご利用者様の居心地の良い環境作りをしています。	凝った折り方の折り紙やタペストリーが壁を彩り、明るい共用空間です。週2回専門業者が入り、トイレや手すり、居室の清掃をおこない、またトイレは早番が、また夜勤帯が次亜塩素水の床モップで清潔を保っています。	足元に洗濯用具が置かれていたり、脱衣室に在る塗薬は洗濯バサミと同じケースであったりと、整理整頓や清潔には課題が残ります。職員間で一度話し合うことを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	制限を作らず、自由に居室で過されたり、お話されたりテレビをご覧になつたりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ空間をそのままこちらで感じられる様ご家族にお伝えし協力して頂きながら居心地の良い空間作りをしています。	エアコン、カーテン、ベッドのほか大きなクローゼットと色調を揃えた机も備わり、大きな持ち込みは必要なく入居できるようになっているためか、どの部屋も個性が感じられません。それでも、時計やカレンダーが置かれていると「軽度なのかな」と、認知症の度合いが覗えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	少しでも自立した生活、安心した生活が送れる様支援しています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290500145		
法人名	株式会社 関東サンガ		
事業所名	あたま翔裕館		
所在地	熱海市水口町1-23		
自己評価作成日	令和2年1月10日	評価結果市町村受理日	令和2年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2019_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2290500145-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2019_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2290500145-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和元年2月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

常にご利用者様の思いを理解し共同生活を楽しく・元気に過していただける様、ゆとりある生活支援を心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループ内での地域エリアが変わり、当事業所でも法人名、事業所番号、事業所名の変更がありました。10年余もこの地域に在る事業所ですが、新たにスタートを切ったことで、諸所取組みを見直しています。例えば掲示と全体会議で唱和するほかは理念浸透への取組みがないことは、法人のES調査でもこの点が課題とあがっているため、今後は正していく予定です。一方光明もあり、事業所の対応を利用者家族が評価してくださっていることは今回のアンケート結果でも顕著で、人数が少ないなかにあっても協力意識をもって日々活動できています。法人が推進する『元氣グループ認知症ケアプロジェクト』も始まり、"これから、"という時です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念とグループホーム年間目標を掲げ全職員が共有できる様務めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域ボランティアや保育園との交流は、続けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献までは至らないが地域との繋がりを続けていく事により理解を求めて行きたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議にて現利用者様の現況や活動内容を報告し話し合いの場を作っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂きいつでも相談できる体制をとっています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の正しい知識と理解は、その都度現場や研修で確認し職員全員が共有できる様務めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修・内部研修で学ぶ機会を持ち研修報告書での確認や職員とのコミュニケーションの場を持ち防止につとめている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員が理解するまでに至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用者様・ご家族が安心できる様十分な説明を行い理解を求めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様と密に連絡を取り合い細やかな報告や相談をさせて頂く事により良い関係性を築いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議・GH会議等で会社の運営、職員との意見交換を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全体・個々に改善を行っている途中です。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・職員には、研修の情報と機会の確保を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流、情報交換は、研修を通してのみ行っていないが今後は、施設全体での勉強会を行い向上して行きたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	支援していくうえでご利用者様の更なる理解と安心を確保できる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	少しでも多くの要望に応えられる様支援して行く事がより良い関係性を築くことである。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	決められた支援ではなく限りない支援をして行く。本人にとって本当に必要なかを見極めを判断する事も重要である。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護者主体の生活になりがちなのでご利用者様の声を傾聴し受容する様努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様のご様子を事細かに報告しご要望をお聞きする事、共に支援する関係性を築いていく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	他者との交流はとても大切である為継続していく事が大事だと思っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り全員が他者とのコミュニケーションが図れ孤立しない様支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今まで築いて来た関係性を断ち切ることも無く受入れの態勢を維持していく。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の日頃の思いや様子を傾聴し支援の仕方を話し合っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人ファイルやご本人、ご家族からお話を伺っていますが全職員の把握まで至っていない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間のほう・れん・そうを徹底し細かい変化や訴えを見逃さない様にしています。又ユニット会議ではご利用者様の現況、支援の方法を話し合います。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員がモニタリングの必要性を認識し介護計画に沿った支援にまで至っていない。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に関しては職員によって記録の仕方が充分とは言えず、それが実践や気づき繋がっているとは言えない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別支援としてその人のニーズに応えられる様職員が柔軟に対応しご家族様ともその都度話し合いご利用者様にとって最適なサービスが出来る様努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年間行事を通して地域の方々に協力を求めご利用者様の充実した生活を求めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様の負担にならぬ様ご家族様と良く話し合いどの様な体制で行くか決めていきます。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の協力を求め、些細な事でも相談できる環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のケースワーカーと密に連絡を取り合い連携を保っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者様の些細な変化をご家族様に報告し今後どの様に終末期迎えるかを早い段階から希望を聞いてその時に備えている。ただ態勢は、完璧とは言えない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時における対応は、職員でスムーズに連携が取れる様マニュアルにし定期的な確認が必要である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内の避難場所として当施設を利用して頂くと共に町内の方々と防災意識を共有して行きたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎年節遇の内部研修を行い、個々の意識改革をして行く事。全職員が徹底した接遇を目指している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中でうまく聞きだせる、又は決定できる様職員が働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間や1日の流れにこだわらず、個々が自由に快適に生活できる事を大事にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	少しでも笑顔が見られる様個別に対応させて頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方が決まってしまうのが現状です。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	徹底した記録と細やかな引継ぎ、状態に合わせたケアをしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	気になる方は、御家族と相談の上訪問歯科を利用、定期的に見て頂きながら毎食後の口腔ケアは、欠かさず行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を徹底し排泄、排便のリズムの把握、スムーズなトイレ誘導、ポータブルトイレの利用等その方に合った排泄方法を常に考えています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医や看護師に相談し薬の調整・水分での工夫など個々対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員本位になってしまっているが温泉と言うと皆様に大変喜ばれ、入浴後には笑顔を見せて下さいます。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	強制的にならぬ様、食事時間をその日の体調に合わせてたり、個々の生活習慣を尊重しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	些細な事でも医師・看護師に相談し、職員の服薬に対する認識も向上する様努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族様に昔のご様子をお聞きしたり、得意な物や、得意だったことが少しでもできる様支援しています。ただ全員には、至っていない		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに担当を決め、ドライブ等のイベントを考えている個人的なご希望に添えない場合も有るが、添えるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と連携し、外出のときは、買い物ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望は、その都度お聞きし対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎の壁画づくりや、折り紙等でクリスマス作りをしたりご利用者様の居心地の良い環境作りをしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	制限を作らず、自由に居室で過ごされたり、お話されたりテレビをご覧になったりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ空間をそのままこちらで感じられる様ご家族にお伝えし協力して頂きながら居心地の良い空間作りをしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	少しでも自立した生活、安心した生活が送れる様支援しています。		